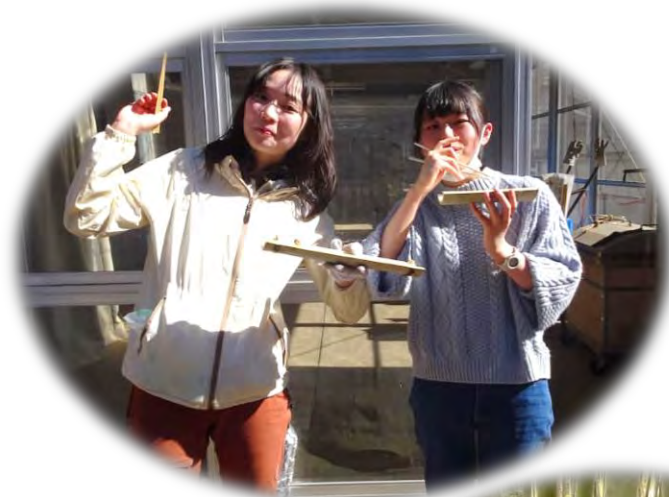


都立大ボラセン

－都立大から生まれるボランティア活動－
Vol.8

10th Anniversary Year



特集1

2024年度「ボランティアプログラム」の活動（後半）

特集2

学生コーディネーター企画「1dayボランティア」の開催

特集3

2024年度 大学生ボランティア活動報告会の開催

特集4

大阪公立大学V-stationとの交流会



東京都立大学ボランティアセンターは
今年度、設立から10周年を迎えました。

これからも学生の皆さんの
「やってみたい」を応援し続けます。

地域の方々のお力添え・ご支援に
厚く御礼申し上げます。

東京都立大学ボランティアセンター

目次

特集1

2024年度「ボランティアプログラム」の活動（後半）	4
----------------------------------	---

特集2

学生コーディネーター企画「1dayボランティア」の開催	10
-----------------------------------	----

特集3

2024年度 大学生ボランティア活動報告会の開催	12
--------------------------------	----

特集4

大阪公立大学V-stationとの交流会	25
----------------------------	----

2024年度「ボランティアプログラム」の活動（後半）

ボランティアプログラムとは、都立大生のみが参加できる、都立大オリジナルのボランティア活動です。事前学習・事後学習の機会に加え、年間を通じて継続的に活動を行い、地域・社会の課題と向き合い、取り組むことを通して学びを深め、社会のボランティアリーダーとなることを目指します。活動内容の企画や運営は2年目以上の参加学生を中心に行っています。

2024年度は、スポーツボランティアプログラム、地域ボランティアプログラムの2つに取り組み、スポーツボランティアは14名、地域ボランティアプログラムは24名、計38名がプログラムに参加しました。

今号は、2024年度後半の活動の様子を学生の感想と共に振り返ります。

■ 竹林整備（地域5回目）

日時：2024年11月16日（土曜日）

内容：屋外での作業の安全対策を学ぶ、竹の伐採・緑地整備を行う。

活動当初は普段使用しないのこぎりの扱いに苦戦することもあったが、後半ではかなりスムーズに伐採の作業を行えるようになった。
次回はより多くの竹を効率的に伐採し、通行者が安全に通れる状態に整備することを目標に活動したい。



少人数での活動で少し不安もあったが、いつも以上に皆で考えながら活動できたと思う。普段はチームのリーダーに従って活動するが、今回は、最年長ということもあり、自身がリーダー側として活動した。竹を切る際に他の人にアドバイスをすることで、自分自身もコツや安全な方法の確認ができたと思う。

■ 竹林整備（地域6回目）

日時：2024年11月30日（土曜日）

内容：屋外での作業の安全対策を学ぶ、竹の伐採・緑地整備を行う。竹の利活用について考える。

枝払いの上手なやり方やどの竹を切るべきかの見つけ方などを知ることができてよかった。

伐採時には常に周囲を意識し活動することや、竹の利活用はアイデアを出すだけでなく実際に使って楽しみ味わうことが大切であるとわかった。



モルックを皆でできたのがとても良かった。竹の利活用という視点をも大切に残りの活動も頑張っていきたい。



参加する度に新しいことが学べる楽しさを感じた。モルックも初めての経験だったが、切った竹を通して人との交流ができ、利活用のイメージが膨らんだ。

■ 竹林整備＋門松作成（地域7回目）

日時：2024年12月14日（土曜日）

内容：屋外での作業の安全対策を学ぶ。考えながら竹を伐採し、門松用竹の製作を通し、竹の利活用を考える。

自分たちで門松に使いそうな竹を見極め、安全を考えて切ることができた。さらに斜め切りや枝払いなど技術面でも少し上達できたと思う。



竹を斜めに切断するのが思いのほか集中力と根気を要する作業であった。



今回は竹を加工する作業もあってこれまでの活動とは異なる楽しさがあった。



切るべき竹を見極めることがなかなか難しく、先輩方に頼ってしまった部分があるので次回以降は周りの方に意見を求めながら積極的に見つけて切っていきたい。

良かった点はスムーズに切ることができたこと、また前回掴んだコツ、注意点を再確認することができたこと。課題としては斜面での作業は足元を取られることが多いので、慎重に作業を行いたい。

▶ 斜め切りをした竹を中心に綺麗に飾りつけ、立派な門松として地域のこども園に飾っていただきました。



2024年度「ボランティアプログラム」の活動（後半）

東京八王子ビートルインズホームゲーム運営（スポーツ6回目）

日時：2025年1月19日（土曜日）

内容：東京八王子ビートルインズ（プロバスケットボールチーム：B3リーグ所属）のホームゲーム運営のボランティアを行う。



他のボランティアスタッフの人とコミュニケーションをとりつつ、お客様にも積極的な声掛けができたと思う。



入場口での仕事も、試合後の片付けも、総じて楽しみながら活動できたのが良かった。

東京都障害者スポーツ大会「バレーボール(精神部門)」（スポーツ7回目）

日時：2025年1月29日（水曜日）

内容：東京都障害者スポーツ協会主催の「バレーボール（精神部門）」大会にて競技補助を行う。

都立大学メンバーだけでなく一緒に活動した他のボランティアや運営スタッフの皆さんと連携をとる事ができた。また試合自体も存分に楽しむことができた。

ボランティアの方々が明るく、一緒に活動して楽しかったです。次回はルールを熟読してゲームを深く理解しながら関わりたいです。



2年連続で同じ大会に参加したということもあり、流れがなんとなくわかっており、同じグループになった方達と協力してできたので良かったと思う。また、障がい者スポーツの大会に何度か参加した経験を活かし、グループで分かれた時にリーダーシップを少し発揮できたのは、2年間での1番の成長した点であると感じた。



■ 竹林整備＋ロケットストーブを囲んでの座談会（地域8回目）

日時：2025年2月11日（祝日・火曜日）

講師：加藤英寿先生（理学部）

内容：屋外での作業の安全対策を学ぶ。竹の利活用や次年度取り組みたいこと等を話し合い、参加学生同士の意見交換の場とする。

座談会では最初は何をしたらいいかわからなかったが、だんだん自分から声をかけて動けるようになったのが良かったと思う。
何よりみんなで楽しくご飯を作って食べることができて良かった。



伐採した竹からコップや皿を作り、火おこしに竹炭や乾いた竹を利用したことで竹の実用性を体感できた。



普段あまり話さない人達とも交流が出来た。竹の利活用法について改めて考える機会になった。



切り倒して終わりではなく、みなさんの知恵が集まって作り上げた座談会という楽しい場に参加できて嬉しかった。
リーダーの方の「毎年良くなっている」という発言に違わぬよう、来年からは自分の手でボランティア活動の幅を広げるお手伝いをしたい。



■ 事後学習（地域）

日時：2025年2月17日（月曜日）
講師：橋上健司 様（ひなた緑地遊学会）
内容：1年間の活動を振り返る

ボランティアを始める前は、知り合いが少なく、1人で活動することになるのか不安だったが、メンバーの皆さんがとても新鮮に手助けしてくださったおかげでとても楽しく活動できた。



ボランティア活動は
「社会貢献」「良いことをする」ではなく
「好きを追求する」ものにイメージが変わった。

ボランティアは、大義名分の元に行うと思っていたが
何となく、楽しそう、でいいんだと気づいた。



単発活動の集まりだと思っていたが、実際は
縦につながりが多く、目標や実現手段を決める
事前・事後学習も充実していた。
おかげで、竹林を見比べ、達成感を
得ることができた。



「ボランティア」はいわゆる時間があって、
余裕がある個人が参加し、常に参加しないといけな
いものだと思っていたが、自分が可能な時に
参加すればよいと感じ、参加のハードルが
下がったと感じた。



楽しかった。
ボランティアは
自由でよい。



2024年度の地域ボランティアプログラムに
ご参加いただいた学生の皆さん、お疲れ様でした。
また、ご協力いただきました地域の方々にも
厚く御礼申し上げます。

■ 事後学習（スポーツ）

日時：2025年2月21日（金曜日）

講師：信太奈美先生（健康福祉学部）、瀬上健司様（東京都障害者スポーツ協会）、
宮崎雅也様（日野市社会福祉協議会）

内容：1年間の活動を振り返る



東京マラソンのボランティアでは
ボランティアの活動があるからこそ
大会が成り立っていると実感できて、
ボランティアの存在の大きさを
改めて感じた。
自主企画では、一から企画・運営を
みんなでつめていくことの
面白さを実感することができた。



ボランティアと聞くと、「他者のため」「相手の
ため」という意味合いが大きいのと思っていたが
それだけではなく、自分自身の成長や経験にも
繋がっていると実感することができた。



コミュニケーションを取ることはできたが
もっと、初めてボランティアをする方へ
配慮ができればよかった。

ボランティアは、もっと気軽に
参加していいのだと
2年間で感じられた。



ボランティアは、気軽に、楽しく、
取り組める、という認識に変化した。



ボランティアは、「やってあげる」という
イメージが強かったが、ボランティアを通じて
「楽しさ」や「学び」を感じることができ
当初のイメージはなくなった。



2024年度のスポーツボランティアプログラムに
ご参加いただいた学生の皆さん、お疲れ様でした。
また、ご協力いただきました地域の方々にも
厚く御礼申し上げます。



「ボランティアに1人で行くのは不安」という学生に、ボランティアへの一歩を踏み出してもらうため、学生コーディネーターと一緒にボランティア活動を行うイベント「1dayボランティア」を開催しました。

2024年度は、地域の4団体にご協力いただき、ボランティア活動を行いました。活動の事前・事後学習も行い、参加学生にはボランティアを多角的に感じてもらいました。

事前・事後学習の様子を、学生の感想と共に振り返ります。

1 dayボランティアにご協力いただいた団体のご紹介

「良い子食堂」

若い家族や子どもさんのために一つの方向を目指し集まった私達スタッフには和と活気があります。いちばん嬉しいのは子どもさんの成長と親御さんの笑顔。良い子食堂に行って良かったと思ってもらえるよう活動していきます。

「スープの会」

「ホームレス」と呼ばれる人々の元へ「路上訪問」を続けてきました。「炊き出し」ではなく、一人ひとりを訪ねて言葉を交わします。支援とか援助と固く構えずに、自然な出会いを育むなかで、互いに「人」として認め合い知り合うことを大切にしてきました。

「東京八王子ビートレイフズ」

東京八王子ビートレイフズは、「子どもたちに夢と未来を!」「バスケットで八王子を盛り上げる!」という理念の基、八王子市を中心に活動しているプロバスケットボールチームです。昨シーズンは18チーム中12位です。現在B3所属ですが、B2昇格に向けて日々精進しています。

「社会福祉法人 草むら」

社会福祉法人草むらは、主に精神に障がいを持たれている方の就労や生活の支援を行っています。夢畑は支援事業所の1つで、農園活動を通じた居場所となっています。

事前学習



ボランティア活動について、文字にすることで自分の気持ちを整頓できた。
他の人の考えを知ることで、客観的なイメージも持てた。



団体の方に調節質問できたのはとても参考になった。
イメージがより具体的になった。



興味深い話が聞けた。
自分の見方に偏見があったことを自覚した。

事後学習



意外にも、同じ思いでボランティア活動に尽力する仲間が多いんだと思った。



ほぼ初めてのボランティアで
関わり方がわからなかったが
一緒に参加してくださったことで
安心できたし、関わり方も
知ることができた。



学生コーディネーターの
皆さんが、団体の方との
間を取り持ってもらえて
とてもやりやすかった
と思った。



ボランティアに
参加すると、
その大変さも
よくわかるので
運営・参加者への
敬意が
より深まった。



活動すること
に対するハードルが
下がったし
親しみを
持つことが
できた！



ボランティア活動に参加する
ハードルが以前よりもなくなったため
これからも積極的に参加したいと思った。



2024年度の1dayボランティアプログラムに
ご参加いただいた学生の皆さん、お疲れ様でした。
また、ご協力いただきました地域団体の方々にも
厚く御礼申し上げます。



2024年度の締めくくりに、本センターに登録のある学内団体が、1年間のボランティア活動の取組や成果・課題を発表する「大学生ボランティア活動報告会」を開催しました。今回のテーマは「Rethink ~あなたにとってのボランティアとは?~」。学生たちが1年の活動を振り返り、それぞれにRethink（再考）しました。Special Guestとして大阪公立大学V-stationの皆さんにもお越しいただき、非常に充実した会となりました。

参加者及び聴講者の皆様より沢山のご意見・ご感想を頂戴しておりますので、各団体の発表内容と合わせまして本会の振り返りとして一部ご紹介いたします。

当日お越しいただいた皆様、誠にありがとうございました。

各団体の発表（その1）

1) 児童文化研究会



●団体について

子ども向けの人形劇を行う団体。劇で利用する人形や小道具、台本等もすべて手作り。年数回、小学校や児童館、大学祭等で公演を行っており、人形劇というコンテンツを通じて、子どもたちに新たな知見や知識をもってもらうことを目的としている。



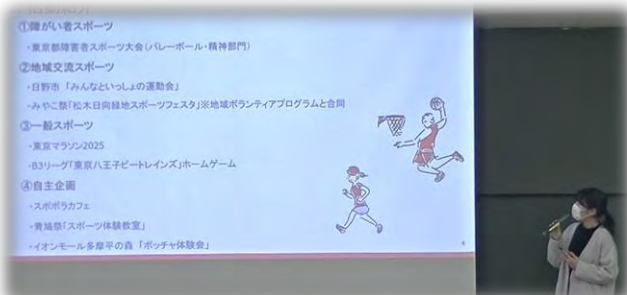
●Rethinkしたこと

年6回の主催公演の他、外部団体主催のイベントでのゲスト出演、主催公演での人形作り体験を行う等、子どもたちがより楽しめる新たな取組にチャレンジした。

●今後の展望

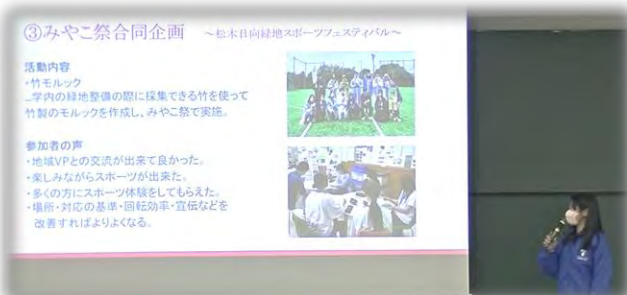
人形劇を中心に活動しつつ、新たな取組も継続し、引き続き、子どもたちに楽しさを提供していきたい。

2) スポーツボランティアプログラム



●団体について

スポーツを通じた地域活性化やインクルーシブな社会の実現、スポーツ文化の醸成を目指す。2024年度は、地域の社会福祉協議会主催の運動イベントに参加したり、地域ボランティアプログラムと連携し新たな取組（竹モルック）にチャレンジした。



●Rethinkしたこと・今後の展望

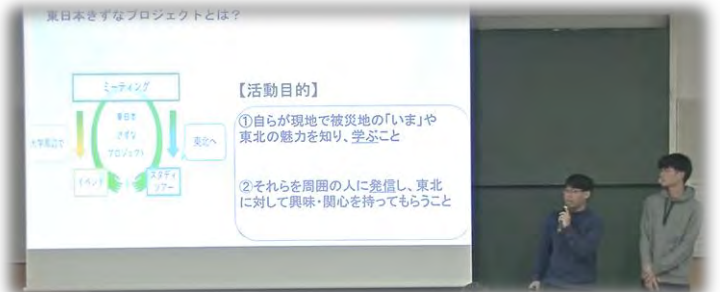
どうやってボランティアを続けていくか?という点に着目、モチベーションになる＝相手も自分も笑顔になるボランティアがあれば続けていけるのではないかと、ということ、そして、参加しやすいボランティアとなるよう、場所や日程等の工夫が必要と考えている。

各団体の発表（その2）

3) 東日本きずなプロジェクト

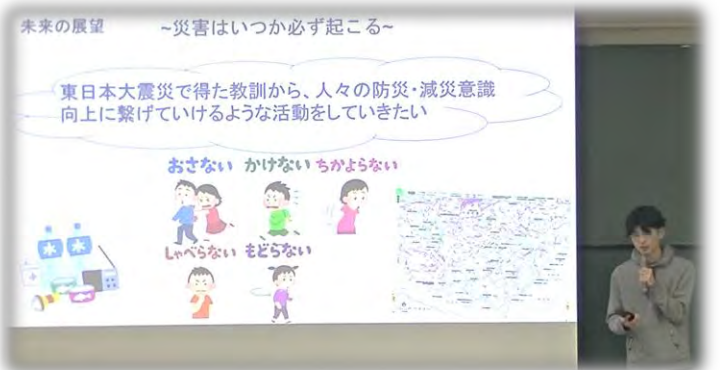
●団体について

東日本大震災（2011年）を機に被災地の今を伝え、東北の魅力を伝えていくために設立された団体。月1回のミーティングに加え、東北へ直接足を運んで多角的に学び、発信している。2024年度は、八王子地域のイベントに初参加、団体の活動紹介・大槌町の紹介・東北の定点観測の変遷を地域の方に知っていただいた。



●Rethinkしたこと

目に見えるものだけでなく、支援の輪を広げることや、相手のためだけでなく、自分たちも沢山学ぶこと、を考え自分たちの経験・学びを多くの人に発信することも含め、「ボランティア」だと考えた。



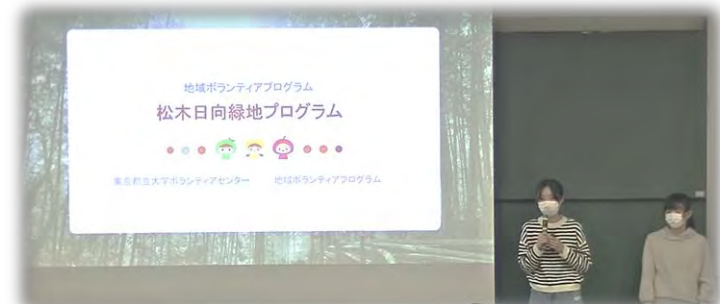
●今後の展望

発信することを中心に活動したいと考えているが、一方で、継承したものをどう次世代に伝承するか、人々に継続的に興味を持ってもらうためにはどうしたらよいか、という課題もある。自分たちの訪れた場所の記録や、ガイドブック作成等を行い、課題解決のきっかけを作っていきたい。また、いつか起こる災害に対し、自分たちの経験を伝え、防災・減災の意識向上につながる活動をしたい、と考えている。

4) 地域ボランティアプログラム

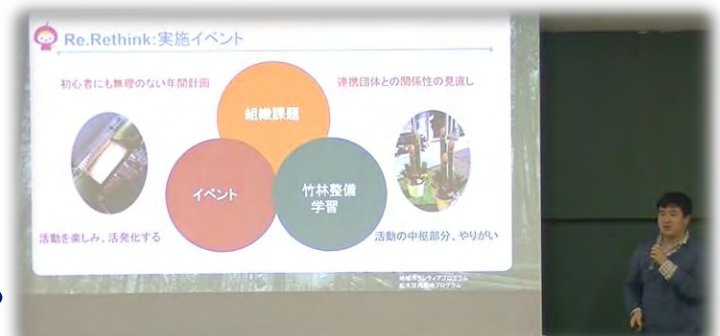
●団体について

「都立大・松木日向緑地」をフィールドとして、多世代による里山保全と利活用を通して豊かなコミュニティを形成しており、近年は交流も重視している。メンバーでの活動を基本としているが、技術面では地域団体の方に指導をお願いしている。



●Rethinkしたこと・今後の展望

1つめは、年間の活動実施計画を見直し、初心者でも気軽に参加しやすくなるようステップを検討したこと。
2つめは、学祭における出展において、負担を少なくし、継続しやすい取組を検討した結果、スポーツボランティアプログラムとの合同企画を初めて実施し、好評を得た。
3つめは、「ボランティアを楽しむ」ことを軸に活動を考えているが、学びや課題への取組とのバランスを取りながらイベントも計画・実施し、人々のつながりの輪を広げたいと考えている。



4つめは、活動時期について。本来春先から活動を行いたいが、学年歴の問題や、夏場は熱中症等の危険性があり竹林での活動が難しいため、空白期間が生じないような活動時期を考えていきたい。より多くの方が関わり、持続可能な竹林整備活動を目指したい。

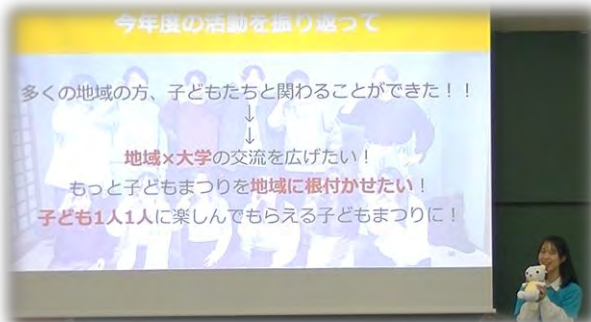
各団体の発表（その3）

5) 都立大子どもまつり実行委員会



●団体について

2024年度発足の新しい団体。地域の子もたちが楽しめる「都立大子どもまつり」の実施、そして地域に根付いた活動として、地域のボランティアへの積極的な参加を軸とし、子どもたちや地域の方とつながり、大学のあ



●Rethinkしたこと

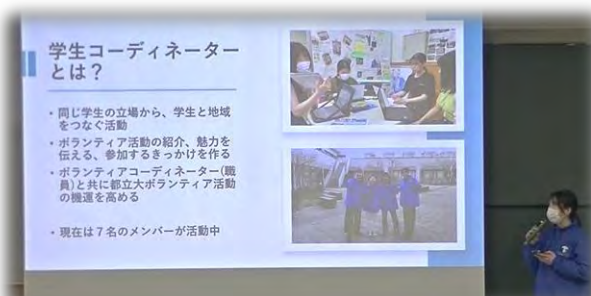
2024年7月に開催した第2回「都立大子どもまつり」。1,400人程の来場があり、地域の方や大学の協力があつて実現できた。初参加となる運営側の1年生にも不安がないよう配慮し、それぞれ果敢にチャレンジし、役割を果たした。

また、地域に根付いた活動として、地域のお祭りに参加したり、子ども食堂など福祉に関する支援ボランティアも行いました。また、情報交換の場として全国公立大学学生大会など複数のイベントにも参加し、それぞれにやりたいと思う活動を行うことができた。

●今後の展望

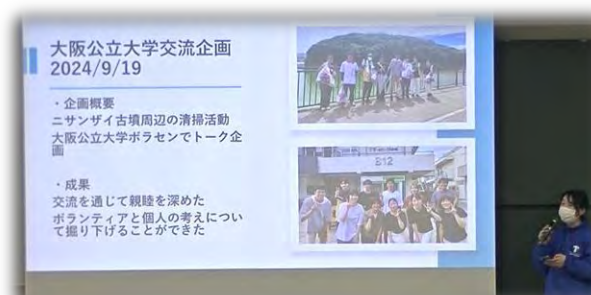
子どもまつり開催にあたって生じた課題を解決し、より多くの方に楽しんでもらえるようにしていくこと、ボランティア活動にもより力を入れていきたいと考えている。

6) 学生コーディネーター



●団体について

都立大ボランティアセンター所属の学生で、地域と学生をボランティアでつなぐ役割を担う。ボランティア活動の紹介、参加のきっかけづくり、魅力を伝えることを目的としている。



●Rethinkしたこと・今後の展望

2024年度は、大学ボラセンEXPOへの参加や、大阪公立大学との交流を初めて実施した他、南大沢夏まつり等過年度から継続している活動も行った。このことから、今ある繋がりをただ継続するだけでなく、それを生かした企画を考えることや、メンバーの学部・学年も様々なので、それぞれの興味関心を形にすること、その経験を通じて自分自身が成長し、社会とつながりを見つけ、「自分にとってのボランティアとは何か？」を見つけていきたい。

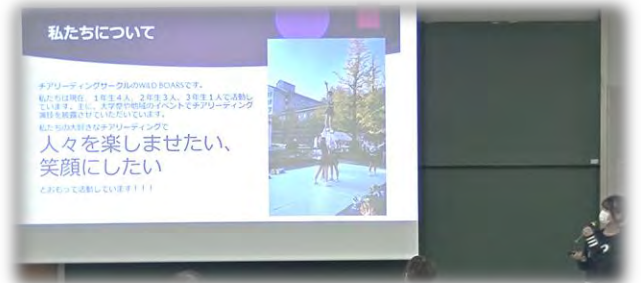
今回の大学生ボランティア活動報告会においても、学生コーディネーターは運営する学生として、たくさんの力を発揮してくれました！

各団体の発表（その4）

7) WILD BOARS（競技チアリーディングサークル）

●団体について

チアリーディングのサークル。学祭や地域イベントにて演技を披露している。「人々を楽しませたい、笑顔にしたい」と思い活動しており、地域との交流を深めることや、子どもたちの心身成長のサポートを目的に、保育園でのチアリーディング指導のボランティアも行っている。



●Rethinkしたこと

2024年度の活動で、地域の方や子どもたちがチアリーディングの演技を楽しんでくださったこと、魅力を伝えられたことはすごく印象的だった。また、子どもたちがこれから踊るのを楽しみにしている、という声も聞き、活動がつながっていく嬉しさを感じることができた。



●今後の展望

子どもたちが飽きないような指導方法の工夫や、活動を継続して行えるよう地域団体との連携を深めていきたい。また、より多くの方にチアリーディングの魅力を伝えるべく、活動の場を広げていき、地域貢献の輪を広げることにつなげていきたい。

8) いきもの！サークル東京

●団体について

いきものが大好きなメンバーが集まったサークル。展示活動「都立大いきもの園」を通じ、学内をはじめ、各地域のイベント等様々な場所で幅広いいきものの魅力を発信している。



●Rethinkしたこと

展示活動では、苦手とされる印象を変えたり、新しい知見も交え、子どもからお年寄りの幅広い年齢の方に親しみをもってもらい、自然と向き合う人が増えることを目標としている。展示方法の工夫の1つに、QRコードをパネルに記載し、動画を用いた見せ方も検討している。



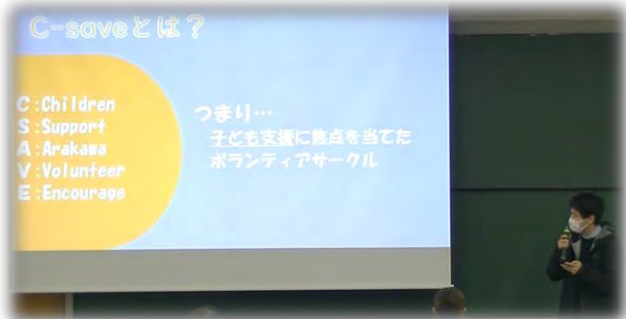
今年度は特にSNSでの宣伝に力を入れ、グッズ等の紹介を行ったところ、好評を得た。SNSを見て展示に足を運んでくださる方もおり、よい効果が得られたと感じている。

●今後の展望

知名度が高いメジャーな生き物の展示を増やすほか、キャンパス内には貴重な生物も多く生息していることから、継続的な調査を行い発信し、多くの方に知ってもらいたいと考えている。また、展示方法をよりわかりやすく・親しみやすくなるよう追求したり、最新の研究について展示と合わせて知ってもらおうといった知見を増やす工夫や、グッズ作りにも力を入れていきたい。

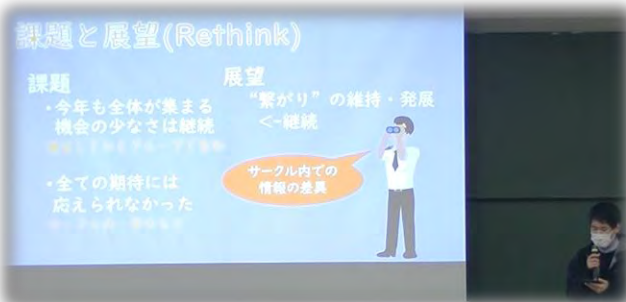
各団体の発表（その5）

9) 都立大子ども支援サークル C-save



●団体について

荒川キャンパスを拠点とする設立2年目の団体。子ども支援に焦点をあてて活動しており、地域の子どもが安心できる居場所づくりを目的とし、地域団体で構成されるネットワークに学生ボランティアとして参加中。



●Rethinkしたこと

地域の長期的なボランティアへの参加や、キャンプ等の短期的なボランティアに参加し、昨年度からの繋がりをさらに広げる活動ができた。地域への知名度向上にもつながったと感じている。一方で、実習や授業の繁忙期が重なる等の理由から、メンバー同士が直接顔を合わせる機会を増やすことはできなかった。

●今後の展望

昨年度・今年度で築いてきた繋がりを、継続・維持し、よりよいものとなるよう次世代へ引き継いでいきたい。

10) 老後サポネット

●団体について

荒川キャンパスを拠点にした、高齢者支援のボランティアサークル。地域包括支援センター等と連携し、高齢者体験会や、スマートフォン相談教室等を開催。2023年度に発足。



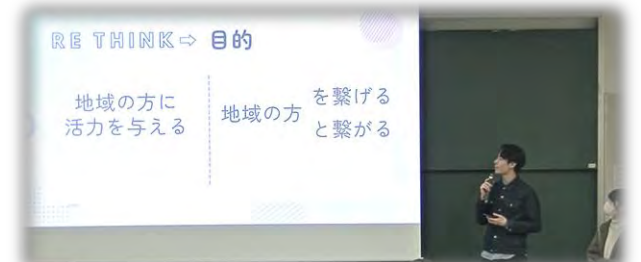
●Rethinkしたこと

ボランティアとは何か？と考えたとき、人とつながること、ではないかと考えている。サークルメンバーや、地域団体の方・イベントの参加者と様々な話をして、活力を得られることが魅力と感じている。

私たちは、毎日同じように過ごしている方が、学生と関わることで刺激になり、活力を与えられるようにしたいという思いがある。また、地域に近づけば近づくほどボランティアを必要としている方が

おり、手が届きやすい・繋がりやすいと考えて活動を続けている。

活動を続けることで、座学やインターネットで調べただけではわからない暮らしに根付いた話を聞くことができ、高齢者の方と話す上でも貴重な体験だと感じている。また、ボランティアをする側が元気をもらえる、という点も嬉しい経験であった。



●今後の展望

サークルとして立てた目標達成の難しさを感じている。メンバーの継続的な参加が十分でない他、自主的な企画の開催が実習や授業の調整が難しくあまりできなかったため、今後は、活動時間の見直しを検討する他、メンバーや活動の維持や拡大に向け情報収集したい。

質疑応答（その1）

当日、会場にお越しの方からいただいたご質問を、抜粋してご紹介します。

▶登壇した団体

●WILD BOARS

●いきもの！サークル東京

●C-save

●老後サポネット

▶▶▶ 地域交流をしようと思ったきっかけは？

●WILD BOARS

「もっと多くの方にチャリーディングの魅力を伝えたい」という思いがあり、4年ほど前の先輩方から始まったボランティアを代々受け継いでいることがきっかけ。



●老後サポネット

元々医療系の勉強をしており、入学当初から高齢者や福祉に関わりたいという思いがあった。子どもたちと関わるのも面白いが、人生経験豊かな方の様々な話を聞くと、自分の知らない世界がたくさんあって面白く、それを魅力に感じたことがきっかけ。



▶▶▶ 小学生向けに色々教えてもらうことはできるか？

●いきもの！サークル東京

ご依頼をいただければ是非伺います！いきもの！サークル東京のメンバーはそれぞれに専門とするいきものがいるので、ご要望に添えるメンバーをそろえて伺います。



▶▶▶ 南大沢の付近でも同じ活動をやってほしいが、やってもらえるか？

●C-save ●老後サポネット

各団体に所属している学生が荒川キャンパス所属であり、南大沢地区まで来るのに時間がかかってしまうこと、また、人数不足もあり、現時点では南大沢エリアでの活動は検討していない。



質疑応答（その1）に登壇した団体の皆さん宛

ご来場の方からいただいた感想
【その1】

いきもの！
サークル東京宛

身近な環境（南大沢キャンパス）に着目して、その価値を掘り起こしていく、素晴らしい活動だと思いました。頑張ってください！！

C-save宛

医療系の学生だからこそ、できる支援がある、というのが素敵だと思います。応援しています！

老後サポネット宛

老人のいる場所づくり、大切だと思います。これからも頑張ってください！

WILD BOARS宛

少数精鋭なのが素敵だな、と思いました。子どもたちに経験を、というのに感銘を受けました！

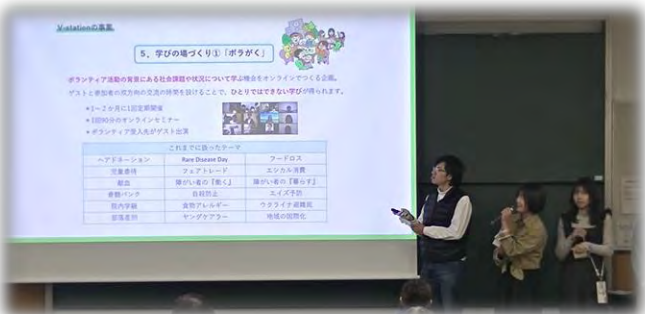
各団体の発表（その6）

Special Guest

11) 大阪公立大学V-station

●団体紹介及び活動について

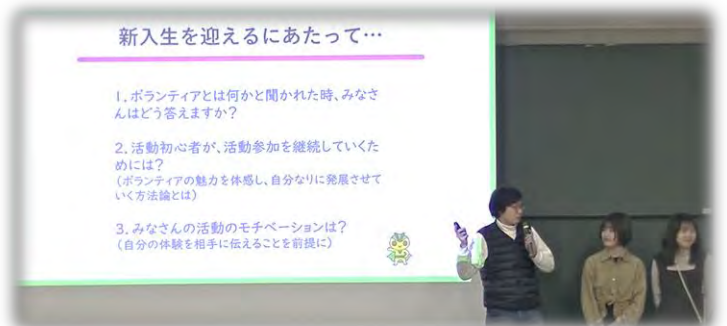
大阪府堺市を中心に活動する、大阪公立大学のボランティア・市民活動センター「V-station」。拠点は中百舌鳥キャンパスと杉本キャンパス。元は学生サークルだったが、2009年に、ボランティアセンターとして、大学の1つの部署になった。理念は「学生が社会問題への関心を高め、その課題を解決する主体は自分たち一人ひとりだ」という意識をもつ」。ボランティア活動に参加したい学生は登録してもらい、そこから活動に参加してもらう制度を取っている。その登録した学生の活動をサポートするのが学生スタッフ。活動の一例として、ボランティアの背景にある社会課題について学びの場を作る、災害時の支援活動、他大学との連携を進める、といったものがある。2025年度は、大阪・関西万博のボランティアに参加するため、2022年度から育成講座等を開催し、活動を盛り上げている。



Q：ボランティアとは何か？と聞かれたとき、どう答えますか？

A：色々な人と活動することで、自分には持ち合わせていない考えを共有することができ、新しい刺激をもらえること

というように、学生それぞれが考える「ボランティア」も様々で、それを発信していくことが大事だと考えている。交流の場でも、様々な人の意見を聞きたい。



質疑応答（その2）

当日、会場にお越しの方からいただいたご質問を、抜粋してご紹介します。

大阪の地域ならではの、と思うものは何かあるか？

活動の種類はわからないが、ボランティアと一緒にやっている中で、人柄として、前のめりの方が多いかもしれない。自治会のお祭りに参加することもあるが、「学生さんの斬新なアイデアが欲しい！」ということと言われることも多く、どんどん、なんでも、まずはやってみよう！という気概の人が多く印象。それがすべてではないとは思いますが、自分たちが活動する時に一緒にする周囲の方は、そういう元気な方が多いかなと感じる。

大阪公立大学
V-stationの皆さん宛

ご来場の方から
いただいた感想
【その2】

様々な活動を
されていて、大変
興味を持ちました。
もっと活動報告を
聞きたかったです。

相互連携が進んで
大学生の輪が広がって
良い環境ができたのは
素晴らしいことだと
思いました。

キャンパスの
多さをうまく利用
した特色ある活動
内容に、非常に感
銘を受けました！

パネルトーク（その1）

学生コーディネーターをファシリテーターに迎え、それぞれの想いを聞きました。

▶登壇した団体

●地域ボランティアプログラム

●都立大子どもまつり実行委員会

●学生コーディネーター

活動前後で変わったこと・Rethinkしたことはあるか？

●地域ボランティアプログラム

最初は竹を切るだけ、だと思っていたが、それだけでは切った竹がそのままゴミになってしまうので、竹コップにしたり、門松にしたり、竹炭を作ったり、座談会で利用する食器にしたり等、利活用を考えるととてもクリエイティブな活動だった。



●都立大子どもまつり実行委員会

自分にできることは何でもやりたい、とっていて、実際に地域のお祭りや小学校での授業サポートボランティアに携わり、様々な立場や経験を通じて楽しかったという思いと、子どもたちへの声掛けやまとめる力など、自分の未熟さも感じ、沢山の気づきと同時にすごく勉強になった。



●学生コーディネーター

ボランティアを運営しイベントを作っていく、というのはすごく楽しかったし、色々な経験ができた。ボランティアは「誰かのために何かする」一方的なものだと思っていたが、活動していくにつれて、「自分が得られるものが大きい」双方向のものだと認識が変わった。



来年度以降どういう活動をしていきたいか？

●地域ボランティアプログラム

イベントや活動時期の再考をしたい、と思っている。特に春先が一番切りやすいこともあり、学年歴も踏まえた最適な時期の検討を行いたい、というのがある。また、イベントも今年度はスポーツボランティアプログラムさんと初めて連携したイベントができたので、来年度以降も新しい企画にチャレンジしたい。以前は子どもたち向けに竹水鉄砲を作って一緒に遊んだり、というイベントもあったので、子どもまつりさんと連携した何かができれば嬉しいなと考えているが、まずは来年度のリーダーたちの意見を尊重したい。

●都立大子どもまつり実行委員会

もっと地域や大学に「子どもまつり」を根付かせたい。それには、色々な方を巻き込みたいと思っている。特に、学内のサークルの方々、大学の方々、地域団体の方々など、様々な関係者を増やしていきたいと考えている。

●学生コーディネーター

今年度は、昨年度の活動を踏襲して活動したので、来年度は新しい企画を考えていきたい。地域とのつながりができているので、それを生かした企画にしたり、コーディネーターとして学んだことを生かしたものであったり、好きなことを形にしたいと思っている。

パネルトーク（その1：続き）

学生コーディネーターをファシリテーターに迎え、それぞれの想いを聞きました。

▶登壇した団体

●地域ボランティアプログラム

●都立大子どもまつり実行委員会

●学生コーディネーター

メンバーのモチベーションの維持に関する工夫はあるか？

●地域ボランティアプログラム

軸となるのは「楽しい」という感情かなと思っている。「楽しい」からこそ続けていける。年間計画等を立てる際にも、「楽しい」を軸にするからこそ、目標に到達できるようルールを敷く、パブリックな目標を達成できるようになるので、とても大切なことだと考えている。

●都立大子どもまつり実行委員会

役割を与えることと、オフにならない（活動しない時期を作らない）ことの2点がある。今年度4月当初、新入生が7人来てくれた。その際「何をやりたいか？」を聞き、「じゃあやってみよう！リーダーやってみてね！」と責任ある立場を学年問わずどんどん任せた。結果的に、苦労は沢山かけてしまったものの、団体としての結束量は深まったと感じている。また、子どもまつり以外の時期も、月1回程度はボランティアに参加しようと考えている。地域のお祭りなどあれば声をかけてほしい。

●学生コーディネーター

楽しさ・達成感を感じてもらえることが大切だと考えている。自分も達成感があるから続けてこられた。ボランティアは自分のためのものではないが、楽しみがないとやはり少し苦しく感じる部分もあるので、活動の中で楽しみや達成感を感じていけることが大事だと思う。

あなたにとってのボランティアとは何か？

●地域ボランティアプログラム

私にとってのボランティアとは「楽しい」。活動が楽しい、人との関わりが楽しい、社会の役に立てて楽しい、様々な楽しいの重なりが、ボランティアとなったと思う。その結果として、公の役に立つものになった、という結果がもたらされるものであると考えている。

●都立大子どもまつり実行委員会

私にとってのボランティアとは「偶然の出会いの場所」。その時・その場所にいかないと会えなかった人たちとつながることができて、楽しかった。

●学生コーディネーター

私にとってのボランティアとは「一つの居場所」。自分の役目があって、成長ができる場所である。



質疑応答（その3）

当日、会場にお越しの方からいただいた、下記登壇者へのご質問を抜粋してご紹介します。

▶登壇した団体

●地域ボランティアプログラム

●都立大子どもまつり実行委員会

●学生コーディネーター

活動スケジュールの調整は再考できるだろうか？

●都立大子どもまつり実行委員会

できると思う。無自覚に「世代が変わる前に・後に」と線を引いて、イベントの計画など考えていたので、今後、情報を得た際に学年歴と調整し意識的に変えていこうと思う。

●学生コーディネーター

予め情報があれば対応しやすい、と思う。学年歴もあるが、様々なイベントに取り組みたいという思いもあるので、丁寧に調整したい。

活動方針は、過去のノウハウを引き継いでいる？もしくは新規に考えている？

●地域ボランティアプログラム

これまでのことを引継ぎ、改善しながら進める形を基本とするが、コロナ禍等のイレギュラーなことがあると大きな変更を余儀なくされることもあるので、OB会等アドバイスがもらえるところがあるといいのかもしれない。

●都立大子どもまつり実行委員会

基本的には過年度の学生が作り上げたものをベースに考えているが、規模の拡大や、関係者を増やし、自分たちのやりたいと思う形を作り上げていこうと思う。

●学生コーディネーター

年度初めに行動指針を決めている。その際、昨年度の内容を振り返りつつ、今年度はどうするか？を話し合い、今までのことをベースに決めていく形をとっている。

パネルトーク（その1）に
登壇した団体の皆さん宛

ご来場の方から
いただいた感想
【その3】

地域ボランティア
プログラム宛

数年前は、コロナ禍で、ただ竹を切るだけの活動だったのが、竹の良さを生かして、竹のリユースができるようになって、成長しているなと感動しました。さらに、他サークルや地域との連携に期待しています。

都立大子ども
まつり実行委員会宛

設立したばかりとは思えない活動量・熱量・行動力に感動しました！

学生
コーディネーター宛

学生とボランティア・学生と地域をつなぐ、大事な活動をしていただき、ありがとうございます。例年にも増して、ボランティアが活発に行われていたと感じました。

学生
コーディネーター宛

忙しいそうだが、やりがいがありそうで、いいなと思った。ボランティアの学生同士の交流は楽しそう。

都立大子ども
まつり実行委員会宛

第3回の子どもまつりも期待しています！また是非参加させてください。密集などの課題、夏開催で起こりうる問題など、一緒に解決していけたらと思います！

パネルトーク（その2）

学生コーディネーターをファシリテーターに迎え、それぞれの想いを聞きました。

▶登壇した団体

●スポーツボランティアプログラム

●東日本きずなプロジェクト

●児童文化研究会

活動を始めた（団体に入った）きっかけは？

●スポーツボランティアプログラム

元々バレーボールをやっていてスポーツが好きだったことと、大学に入って友達を作りたいという思いがあり、偶然募集のチラシを見て、スポーツを通じ、色々な人と関われる！これしかない！と思い、そのまま入ったのがきっかけ。

●東日本きずなプロジェクト

祖父の出身である青森が好きで、何度も行く機会があり、青森の色々な魅力を知っていくうちに、青森っていいな、という思いから東北っていいな、と思うようになり、東北に関わる機会があったら嬉しいと思っていたところに、「東日本きずなプロジェクト」に出会ったことがきっかけ。

●児童文化研究会

人形劇サークルを新歓で初めて見つけたことがきっかけ。人形劇の経験はなかったが、やったことがないものに情熱を注ぐのが楽しそうだったので、やってみることにした。

（手元の人形は自作。名前は、鳥の「つくね」）



活動を始めた時と今の認識の変化は何かあったか？

●スポーツボランティアプログラム

ボランティアは、何かしらの募集があって、それに参加する、というイメージだったが、実際には企画したり、やってみたいことを形にしてやってみる、楽しいものだな、という変化があった。また、ボランティアは自分の視野を広げてくれるものでもあった。例えば視覚障害の方に対して方向をどのように示して伝えるか考えた際など、自分の当たり前が当たり前ではないということにも気づくきっかけになった。

●東日本きずなプロジェクト

ボランティアの認識として、震災ボランティア＝避難所での支援や、物資を運ぶ等、肉体的な仕事が多いと思っていたが、実際は、自分たちで震災について学び、それを発表し、色々な方に知ってもらうことが中心だった。目に見えない形で、ボランティアの幅広さを知ったと同時に、震災（東日本大震災）が起こって14年、復興後も伝え続けていくことの大切さを知った、という変化があった。

●児童文化研究会

子どもと関わる頻度が増えて、最初は子どもとどうやって関わったらいいのか、どうしたら子どもが楽しんでくれるのかかわからず、先輩の真似をしていたが、子どもと触れ合っていくうちに徐々につかめてきて、友達のように話すことで、子どもと打ち解けられるようになってきたな、という変化があった。

パネルトーク（その2：続き）

学生コーディネーターをファシリテーターに迎え、それぞれの想いを聞きました。

▶登壇した団体

●スポーツボランティアプログラム

●東日本きずなプロジェクト

●児童文化研究会

モチベーションの維持はどうやっているか？

●スポーツボランティアプログラム

スポーツをしてくれる方の笑顔が見れることが一番大きい。また、日常のちょっとした変化に立ち会えることもよかった。例えば、最近、足を悪くされてしまって外に出なくなった方が、「私でもこのスポーツやれるかしら？」と興味を持ってくれたり、実際にチャレンジしたり、という瞬間をみれるのがすごくよかった。

●東日本きずなプロジェクト

岩手県大槌町でお祭りのボランティアを行っているが、地域の方に「きてくれてありがとう！」といったお礼を言われると、すごくやってよかった、という気持ちになる。また、東京でも、自分たちの学びをまとめたポスターや展示を見てくださった方から、ご意見や質問をいただき、「これからもがんばってね」といった応援の言葉をもらえるとすごくモチベーションは上がる。

●児童文化研究会

来年70周年を迎える歴史あるサークルに入り、自分に何かできることを模索して、先輩方が築いてきた歴史や伝統を維持しつつ、それを発展させていく、歴史に食い下がっていく、というのが、すごくモチベーション向上になっていた。

団体としてまとまるために工夫していること・考えていることは？

●スポーツボランティアプログラム

人の意見をよく聞くこと。特に、新しく入ってきてくれた人に対して、それを大切にしている。親しい間柄では話しやすいがあるが、新加入の人が続けて活動してくれるように、話をして一緒に考える・様子を見てフォローする、ということ意識している。

また個性を尊重することも大切にしている。よりよい企画となるよう参加者それぞれの想いを汲み、企画に取り入れ実施し、さらに反応が返ってくると、企画やそのスポーツに対して愛着もわきやすく、継続につながりやすい、と考えている。

●東日本きずなプロジェクト

現状、月に数回オンラインMTGを実施している（遠隔キャンパスのメンバーがいる等の理由）が、より濃密な議論をしていくために、対面のMTGを増やしていきたい。

●児童文化研究会

もっと色々な方向に活動の幅を広げていきたい。人形劇をベースに、公演後の人形作成イベントをしたり、子どもたちと遊ぶ時間を設けたり、色々な形で子どもと触れ合っていきたい。



パネルトーク（その2：続き）

学生コーディネーターをファシリテーターに迎え、それぞれの想いを聞きました。

▶登壇した団体

●スポーツボランティアプログラム ●東日本きずなプロジェクト ●児童文化研究会

あなたにとってのボランティアとは？

●児童文化研究会

最もクリーンな、人と人との関係性。人と人との関わりは様々な形があるが、損得勘定が一切ない間柄だからこそ、得られるつながりや関係性はすごくきれいで、気持ちのいいものだと思う。

質疑応答（その4）

当日、会場にお越しの方からいただいた、上記登壇者へのご質問を抜粋してご紹介します。

小学生向けに、東北ツアーや東北のおすすめ等を紹介するイベントはできるか？

●東日本きずなプロジェクト

東北の魅力向上を目的として活動しているので、小学生にも是非知ってもらいたいので、是非参加したい！早速検討する。

★（後日談）2025年7月上旬に、この時ご質問いただいた近隣地域の小学校にて、イベントが実現しました★

皆さんの活動と、行政との関わりや支援を希望すること等はあるか？

●スポーツボランティアプログラム

以前、支援学校でスポーツ教室を実施した際に、活動の様子を写真に収め、広報していただいたことがある。イベント実施の上で広報は欠かせないと思うので、これからも関わりたいと思う。

●東日本きずなプロジェクト

岩手県大槌町では、お祭り実行委員会の方と打ち合わせに参加したり、お祭りの際に着用する衣装や夕食等のご提供をいただくことがある。

●児童文化研究会

八王子市に後援名義申請を行い、八王子市の小学校等で、公演のチラシ配布を行っている。

パネルトーク（その2）に
登壇した団体の皆さん宛

ご来場の方から
いただいた感想
【その4】

スポーツボランティア
プログラム宛

「何かしらの不自由を持った
方が、自分にもできるスポー
ツと出会える」というのが素
敵だなと思いました！

児童文化研究会宛

人形の作り方ワークショッ
プ、今後も積極的にやって
いただけると嬉しいです！
是非参加したいです！

東日本きずな
プロジェクト宛

息の長いつながりを大事にして
いると伝わってきた。
桜の木定点観測も
すごくいい発想と思う。
今後も長く活躍してほしい。

児童文化研究会宛

子どもたちが、人形劇を
とっても喜んでいました。
また小学校に、是非
いらしてください！

スポーツボランティア
プログラム宛

沢山のイベントを
企画でき、より多くの
参加者と一緒に活動できて
いるなと感心しました！

大阪公立大学V-stationとの交流会



大学生ボランティア活動報告会の後、大阪公立大学V-stationの皆さんをお迎えし、学生コーディネーターを中心に、本センターに学内団体として登録している学生と交流会を行いました。

30名以上の参加者同士、レクリエーションを通じて仲を深め、それぞれが思うボランティアを語り合い、テーマに沿って一緒に企画を考えてみたり、非常に有意義な時間となりました。

今回は、参加した学生の感想と合わせて、当日の様子を写真でご紹介します。

参加してくださった学内登録団体の学生の皆さん、学生コーディネーターの皆さん、そして大阪公立大学V-stationの皆さん、ありがとうございました！

交流会の様子 (day1)



交流会の様子 (day2)



大阪公立大学V-stationとの交流会

交流会の様子（作成したテーマ別企画案）＆感想

🌸🌸交流会で感じたこと🌸🌸



2025 3 17

みんなであくろ ○○○○

对象：外国人

实施时期：夏、春

やばい通年

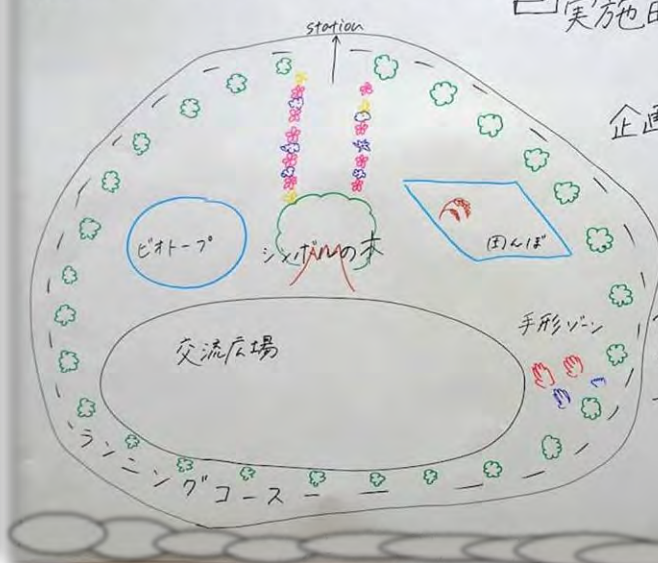
企画内容: 公園づくり

。 ~~耕~~ 植樹

○お花

食を通じて:文化交流

企画理由、効果
公園を一緒につくる
→ 地域愛、一体感
外国人 & 日本人との



TMUなかよしピクニック

対象 子育て世帯 (特に未就学児、小学校の子どもたち)

実施時期) 年3.4回予定! (土.日 10:00~13:00 以下)

企画目的

- ☆ 親ともネットワークの構築
- ☆ 地域のことを知るきっかけをつくる

止面内容 地球にふれなばらピクニック!!
 ↳ お茶とお菓子を食なばらおいベリをいよう!

＜企画例＞

スホ-リ ...

音楽鑑賞会 ... 地域の学校のプラバンドに演奏 
→ 学校選びの参考になる!!

クッキンワ ... 季節に応じた簡単な料理
春 だに / 夏 だぞあり 冬 マシ。アロ ね"

効果 ○ 地域での関係作り
○ 子育てに関する情報 + 子育てに対する安心感 を得るに役立つ!!

外国人向け ワールドフードコミュニティ

WORLD

時期：定期開催

企画内容：料理教室

FOOD

COMMUNITY

②  時期 年1回

企画内容: ワールドフードフェスティバル (WFF)

先生

街の人
校の人
留学生

日本人も外国人も集まる

生徒同士の交流を促進

企画理由：日本の生活文化の理解（住）
外国の生活文化の理解（食）
期待できる効果：外国人と日本人の交流の促進
↑外国人の来日が増える！

企画理由: 料理教室の成果発表、コミュニティの認知度向上

期待できる効果：地域全体での交流
互いの文化の理解
外国人が安心できる場につながる

TMYou!文化祭

年2回(春・秋)開催! ^{あなた} Youとつくる文化界

あなは:
You と つく る 文化 界 □□

	やる人	サポート	(目的) 来る人
フリマ	小学生 まで (4人)	小中高大 親	地域の 子どもや (地域)×(子供)
ステージ	有志団体	運営	中高生の見せ場 子供の発表場④
出店	商店街の人	中・高・大 (ウツナエ)	「 おみやげ 商店街」を 紹介 中高生の 職業体験

参加学生の感想

一緒にボランティアを
したい！

研修企画が印象的だった。ボランティアを作り出すことを考えることはあっても、自分がやりたいことを考えることが多かったので、(架空の)地域のニーズに合わせたボランティアを考える機会は貴重だった。

今後ともこの繋がりが
続くといいなと
思います！
引き続きよろしく
おねがいします！

お陰様でとても楽しい時間となりました。東京出身で大阪に通う身としては、大阪のイメージや東京のイメージなど考えるきっかけとなりました。ボランティア団体さんの交流などできることをやってみたいと思いました。

ボランティアセンターからのお知らせ

1 夏季休業期間のお知らせ

ボランティアセンターでは、下記のとおり、夏季休業期間を設けております。
ご相談をご希望される場合には、下記の期間を参考に相談日時をご検討ください。

▶ 閉室期間

2025年8月12日（火）～15日（金）

上記期間においては、電話・メール・来室でのご相談はお受けできかねます。ご了承ください。

▶ 予約のみ

2025年8月18日（月）～29日（金）

上記期間は、予約された方のみ、来室・相談が可能です。事前に下記フォームよりご予約をお願いいたします。

2 「学生の声」 好評配信中！是非ご覧ください！

ボランティアセンターのWEBサイトでは、ボランティアを通じて活躍する学生の声をお届けしています。学生コーディネーターや、スポーツボランティアプログラム・地域ボランティアプログラムの参加者、ボランティアセンターに登録のある学内団体の学生や、ボランティアセンターを通じてボランティアに参加した学生等、様々な形でボランティアにたずさわる学生が、どのような思いや理念をもって活動しているかお伝えします。毎月1度更新予定です。下記URLからご覧ください。

▶ https://volunteer.tmu.ac.jp/news_pr/volunteervoice/

3 ボランティアの相談はフォーム予約をご活用ください！

ボランティアセンターでは、ボランティアに関する相談をお受けしています。どんなボランティアがあるの？ボランティアってどうやって始めたらいい？といった都立大生からの相談や、学生のボランティアを募集したい、といった地域の方のご相談も可能です。下記URLからご予約ください。

▶ 【都立大生向け】 <https://forms.office.com/r/LAiQFW2aAL>

▶ 【地域の方向け】 <https://forms.office.com/r/ke1QMnYnAb>

表紙の写真

左上：地域ボランティアプログラム 座談会の様子

右上：2024年度 大学生ボランティア活動報告会 学内登録団体の学生集合

中段：地域ボランティアプログラム 竹林整備の様子

左下：スポーツボランティアプログラム ボッチャ体験会の様子

右下：大阪公立大学V-stationとの交流会 参加者全員集合



東京都立大学ボランティアセンター Newsletter
「都立大ボラセン」Vol.8

発行元：東京都立大学ボランティアセンター
発行日：2025年7月31日（木）

所在地：〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1
1号館1階 ボランティアセンター

Tel：042-677-1354

Mail：tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp

WEB：https://volunteer.tmu.ac.jp/

X（旧Twitter）：@tmu_volunteer

支援について



公式 X



公式WEBサイト

